令和元年度版

伊豆半島グランドデザイン

～伊豆を一つに、 世界から称賛され続ける地域を目指して～

伊豆半島７市６町首長会議

目　次

序　章　　伊豆半島グランドデザイン（令和元年度版）の策定について

１．策定の目的　・・・・・・・・・・・・　１
２．期間　・・・・・・・・・・・・　１
３．構成　・・・・・・・・・・・・　１

第１章　　伊豆の姿

１．伊豆の姿　・・・・・・・・・・・・　２
（１）地域の現状
（２）課題
２．伊豆の地域構造　・・・・・・・・・・・・　６
（１）地域構造の現状
（２）地域構造の変化
（３）課題
３．伊豆半島グランドデザインの施策ごとの評価と課題　・・・・・・・・・・・・　９
（１）基幹戦略
（２）重点戦略

第２章　　伊豆のグランドデザイン

１．称賛され続ける世界一美しい半島へ　・・・・・・・・・・・・　１７
（１）基本理念としての「美しさ」の追求
（２）美しい半島の具体的な姿
（３）伊豆が提供していく価値
２．戦略展開の基本的考え方　・・・・・・・・・・・・　２０
（１）戦略の意義
（２）戦略展開の基本姿勢
（３）戦略の構成
３．美しい伊豆創造センターの設立　・・・・・・・・・・・・　２３

第３章　　戦略計画

１．基幹戦略　世界一美しい半島プロジェクト　・・・・・・・・・・・・　２５
２．重点戦略　・・・・・・・・・・・・　２７
（１）交流産業クラスターの創出と再生
（２）ネットワーク型交通・高次都市機能の構築
（３）安全・安心な生活の実現
（４）官民協働による戦略の推進

第４章　　推進に当たって

１．推進力の確保　・・・・・・・・・・・・　３２
（１）推進する仕組み
（２）推進機関の再編
２．伊豆半島グランドデザインの推進組織である美伊豆のありかた・・・・・・・　３２
（１）組織体制・人材
（２）資金の確保
３．各主体の役割について　・・・・・・・・・・・・　３３

世界から称賛され続ける伊豆に向けて　・・・・・・・・・・・・　３４

参考資料

１．伊豆半島地域のデータ　・・・・・・・・・・・・　３６

序章　伊豆半島グランドデザイン（令和元年度版）の策定について

１．策定の目的

伊豆半島グランドデザインは、伊豆を一体的・総合的に捉えた長期的視点に立つ地域づくりの方向性を示すとともに、中期・短期において直面する課題を解決し、地域の振興を図る戦略を構築することにより、地域の誇りと世界の中で輝き続ける伊豆の未来を創造することを目的として平成 25 年に策定しました。

このグランドデザインは、長期・超長期的な視点と、中期・短期的な視点の２つの視点に基づき、具体の展開を５年程度として施策を取りまとめています。

今回、当初の策定から６年が経過したことから、これまでの取組について評価を行い、評価によって浮かび出た課題および環境変化を捉え、伊豆半島グランドデザイン（令和元年度版）として策定いたしました。

２．期間

本グランドデザインでは、平成２５年度策定のグランドデザインと同様に、長期・超長期的な視点（以下「長期的視点」という。）と、中期・短期的な視点（以下「中短期的視点」という。）の２つの視点に基づき、構想や戦略を示します。長期的視点は、３０年先、５０年先を見据え、中短期的視点は、５年程度、おおむね令和７年までを目指し、戦略の具体の展開として、同じく５年程度の施策を取りまとめます。

３．構成

本グランドデザインの構成として、伊豆の姿を考察・分析した上で、地域づくりの基本指針を示し、その上で、それに基づく戦略計画を記載しています。具体的には、下記の４つの観点から構成されています。

- 伊豆が直面している課題、地域構造に関する考察・分析
- 地域づくりの将来像の方向性、戦略展開の基本的考え方
- 戦略ごとに展開する施策と実施主体
- 推進における課題

第１章　伊豆の姿

１．伊豆の姿

伊豆は詩の国であると、世の人はいう。
伊豆は日本歴史の縮図であると、ある歴史家はいう。
伊豆は南国の模型であると、そこで私はつけ加えていう。
伊豆は海山のあらゆる風景の画廊であるとまたいうことも出来る。
伊豆半島全体が一つの大きい公園である。一つの大きい遊歩道である。
つまり、伊豆は半島のいたるところに自然の恵みがあり、美しさの変化がある。

これは、川端康成が「伊豆序説」において、伊豆を評した文章です。

川端に限らず、伊豆は多くの文人・墨客に愛され、多くの作品にその美しい情景、風景が表わされてきました[＊1]。

自然、情景、動植物や食材、歴史・文学、温泉等の資源の多様性があり、しかもどれも魅力的で奥が深く、観光地の素材としてのポテンシャルは今も世界トップレベルにあります。これらは伊豆の強みとなっています。

しかし、伊豆は、日本・世界の中で際立って輝いているとは言えません。地域間競争がより激しくなった今日、伊豆のブランド価値を確立していくことが求められている状況にあります。観光交流客や宿泊客数は回復基調にあるものの、従業員の高齢化等を背景とした観光業に携わる人材不足や、若年層を中心とした人口流出など、地域の足腰は以前に比べ確実に弱まっています。

※1　井上靖「伊豆の海」
　伊豆の旅の美しさは海の変化の楽しさである
芹沢光治良「伊豆の海岸」
　私はブルターニュを旅行しながら、伊豆の風景ばかりを思い出した。フランスで最も美しい海岸だというが、伊豆の海岸の方が風景に変化も多く、光が多いような気がした

（１）地域の現状

伊豆半島地域は、首都圏に近接する日本でも有数の温泉観光地として発展してきましたが、宿泊客数がピーク時の６割未満に減少し、地域の雇用を支える基幹産業である観光業の落ち込みが顕著となっています。

また、伊豆中南部地域、特に賀茂地域においては若者の転出による深刻な人口減少や急速な高齢化が進んでいます。

伊豆中南部地域（３市５町）：下田市、伊豆市、沼津市の一部（旧戸田村地域）、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町

賀茂地域（１市５町）：下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町

【人口の推移】

（単位：人）

地域	1995年 Ｈ７	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2019年10月 Ｒ１．９	2019－2005 Ｒ１－Ｒ17
県全体	3,737,689	3,767,393	3,792,377	3,765,007	3,700,305	3,640,443	△151,934 (△4.0%)
伊豆半島地域	655,815	646,385	637,834	620,945	595,136	573,561	△64,273 (△10.1%)
(参考) 1市5町	86,429	82,397	78,504	73,713	66,438	61,023	△17,481 (△22.3%)

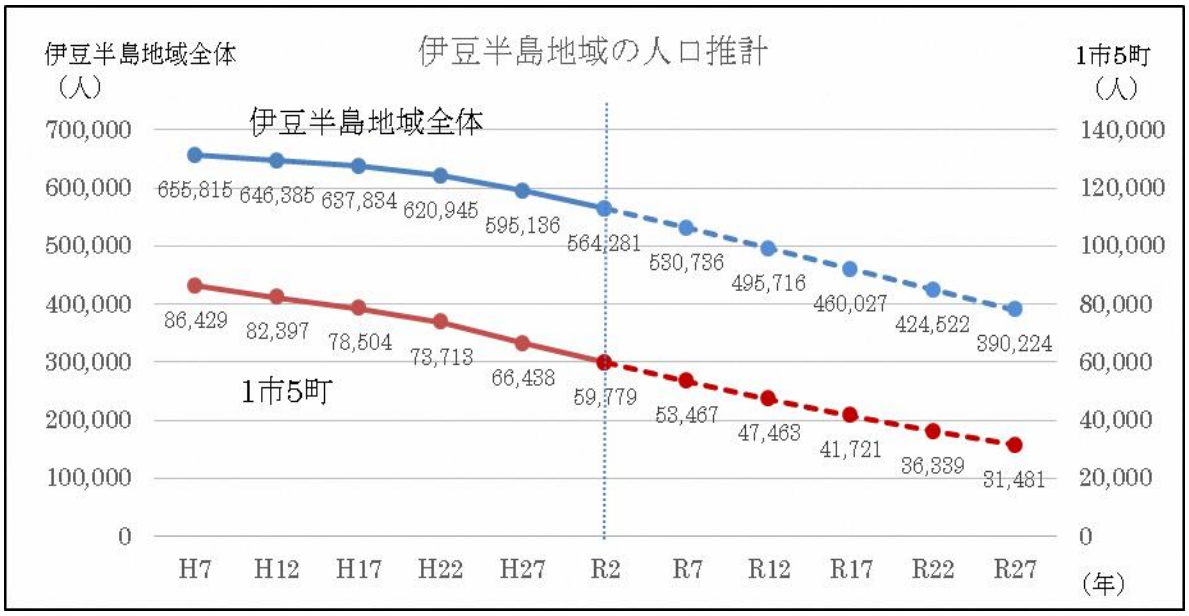
出典：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）
県統計調査課「静岡県推計人口」（令和元年 10 月）

【人口動態（平成 30 年）】

（単位：人・%）

地域	人口	増減数	増減率	自然増減数	自然増減率	社会増減数	社会増減率
県全体	3,726,537	△16,478	△0.44	△16,244	△0.43	△234	△0.01
伊豆半島地域	594,450	△5,663	△0.94	△5,137	△0.86	△526	△0.09
(参考) 1市5町	30,833	△1,349	△2.06	△1,031	△1.57	△318	△0.48

出典：総務省「住民基本台帳人口、人口動態及び世帯数（平成 31 年 1 月 1 日現在）」



※令和２年以降は予測値　　出典：総務省国勢調査要覧、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）

【合計特殊出生率】

地域	2014年 H26	2015年 H27	2016年 H28	2017年 H29	2018年 H30
県全体	1.50	1.54	1.55	1.52	1.50
伊豆半島地域	1.42	1.42	1.41	1.34	1.34

出典：厚生労働省「静岡県人口動態統計」

【高齢化率】

地域	2014年 H26	2015年 H27	2016年 H28	2017年 H29	2018年 H30	2019年 R 1
県全体	25.9%	26.8%	27.6%	28.2%	28.7%	29.1%
伊豆半島地域	30.7%	31.8%	32.8%	33.6%	34.2%	34.8%
(参考) 1市5町	37.2%	38.7%	40.1%	42.4%	43.2%	44.0%

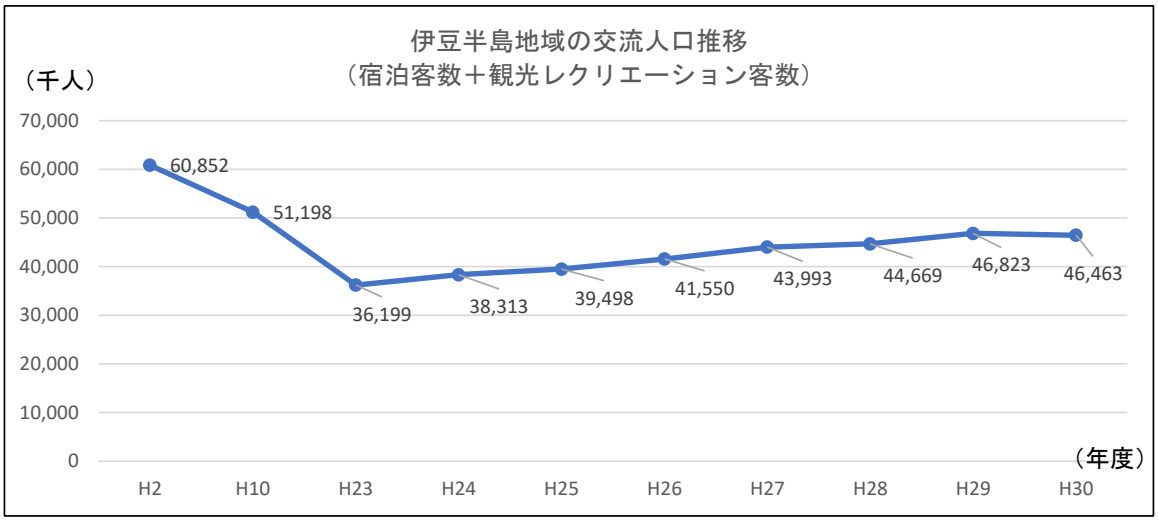
出典：県長寿政策課調（各年４月１日現在）

【大都市圏との転入・転出超過数の状況（平成 30 年）】

（単位：人）

地域	東京圏	名古屋圏	大阪圏	その他圏	計
県全体	△6,484	△784	△287	901	△6,654
伊豆半島地域	△1,093	△13	28	△137	△1,215
(参考)1市5町	△87	△26	△2	△249	△364

出典：総務省「平成 30 年住民基本台帳人口移動報告」



出典：静岡県「観光交流の動向」

（２）課題

「伊豆は一つ」と言われながら、多様性がゆえにまとまれないことがこれまでの最大の弱点で、現在もその傾向は続いています。

伊豆縦貫自動車道 東駿河湾環状道路が開通してから 10 周年を迎え、天城北道路が開通するなど、命の道、地域の成長に資する基盤整備が進み、伊豆半島ジオパークがユネスコ世界ジオパークとして認定されるとともに、伊豆わさび（静岡水わさびの伝統栽培）が世界農業遺産に認定され、駿河湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟するなど、伊豆半島の持つ高い資源価値が世界的に認められています。

更なる交流人口の拡大に向けて、特色ある自然、景観、温泉、歴史・文化、豊かな食材等の地域資源の魅力の向上・発信に取り組むとともに、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催のレガシーを活かした新たな観光需要を創出していくことが期待されます。

また、近年の大規模化・多発化する自然災害に対し、観光客の安心・安全を確保するため、広域的に連携して取り組むことが求められます。

【伊豆半島のＳＷＯＴ分析】

	内部環境（現在）	外部環境（将来）
好影響	［強み］ 〇首都圏からの距離の近さ 〇温暖で住みやすい気候 〇豊富で特色ある自然環境 〇歴史、文学の宝庫 〇長い歴史の中で築かれたブランド 〇伊豆縦貫自動車道共用拡大、新東名開通 〇世界ジオパーク認定 〇世界文化遺産登録（富士山、反射炉） 〇地域連携ＤＭＯの認定（（一社）美しい伊豆創造センター）	［機会］ 〇羽田空港国際化、富士山静岡空港の充実 〇内陸フロンティア、ファルマバレー企業集積 〇アクティブシニア層拡大、アジアの富裕化 〇訪日外国人旅行者増加 〇東京オリンピック・パラリンピック自転車競技会場 〇大型ショッピングセンターなど、商業施設進出 〇第２種旅行業資格取得（（一社）美しい伊豆創造センター）
悪影響	［弱み］ 〇地域内連携の不足 〇肋骨道路など交通網の脆弱さ 〇災害への脆弱さ 〇生産年齢人口の減少、高齢化 〇低い高次元都市機能の充実 〇通信インフラ整備不足 〇キャッシュレス社会への対応 〇温泉街の寂れ、街の情緒低下 〇インバウンド受け入れ体制不足	［脅威］ 〇３連動、南海トラフ、相模トラフなどの地震、伊豆東部火山群火山活動 〇台風、豪雨の増加 〇大規模自然災害の発生、風評被害の恐れ 〇旅行支出割合の低下、価格競争 〇競合地域の拡大（国内外） 〇首都圏の大規模集客施設 〇森林伐採 〇人口減少、観光産業を支える人材不足 〇空き家、廃屋増加による景観の喪失

２．伊豆の地域構造

（１）地域構造の現状

伊豆半島は、三方を海に囲まれ海にせり出す形で山稜が連なるため、市街地は北部の平地に形成され、沿岸地域に小さな市街地や集落が点在する構造になっています。生活圏・商圏も同様に形成されており、人口重心は伊豆の国市（順天堂大学医学部静岡病院付近）にあります。

本地域は、伊豆という大きな観光ブランドは冠するものの、それぞれの観光地・温泉地の繋がりは弱く独自性が強い地域になっています。さらに、急峻な地形から北部地域の国土軸（東名・新幹線・東海道線等）から半島へ南進する幾筋の鉄道・道路のどれも幹線軸としては脆弱で、連携軸をつくりにくい分散型の地域構造でもあります。

（２）地域構造の変化

現在、半島を貫く幹線軸となる伊豆縦貫自動車道の整備が進んでおり、今後も地域構造が大きく変化していきます。

幹線軸の形成は、分散型の地域構造をクラスター状（ぶどうの房状）＊2の繋がりを持つ地域に変え、伊豆全体の域内交流が活発化するとともに、これまで交流がなかった地域内での新たな交流も生まれる可能性があります。また、箱根・富士山方面等との時間短縮など、地域外へ広がりを持つ地域構造を形成します。

（３）課題

地域構造の変化を地域の発展へ結び付けていく絶好の機会が到来し、これまでの粒（それぞれの市町・観光地）のアピールに加え、房全体（伊豆全体）を強く発信していくことが求められます。

世界認定を受けた伊豆半島ジオパークは、まさに新しい地域構造を提案するものです。これに限らず、伊豆全体またはもう少し小さな地域やテーマでの連携など、伊豆の魅力に変化を与える様々な地域連携の提案が可能です。

分散型の地域構造を重層型のクラスター構造にすること、すなわち市町・観光地それぞれが輝きながら、全体または部分的な集合体として魅力の多様性を発揮する地域構造へ変えることが伊豆の発展には不可欠であり、それを可能とする交通ネットワークや推進体制の整備等、地域連携の多様化を推進していくことが今まで以上に求められます。

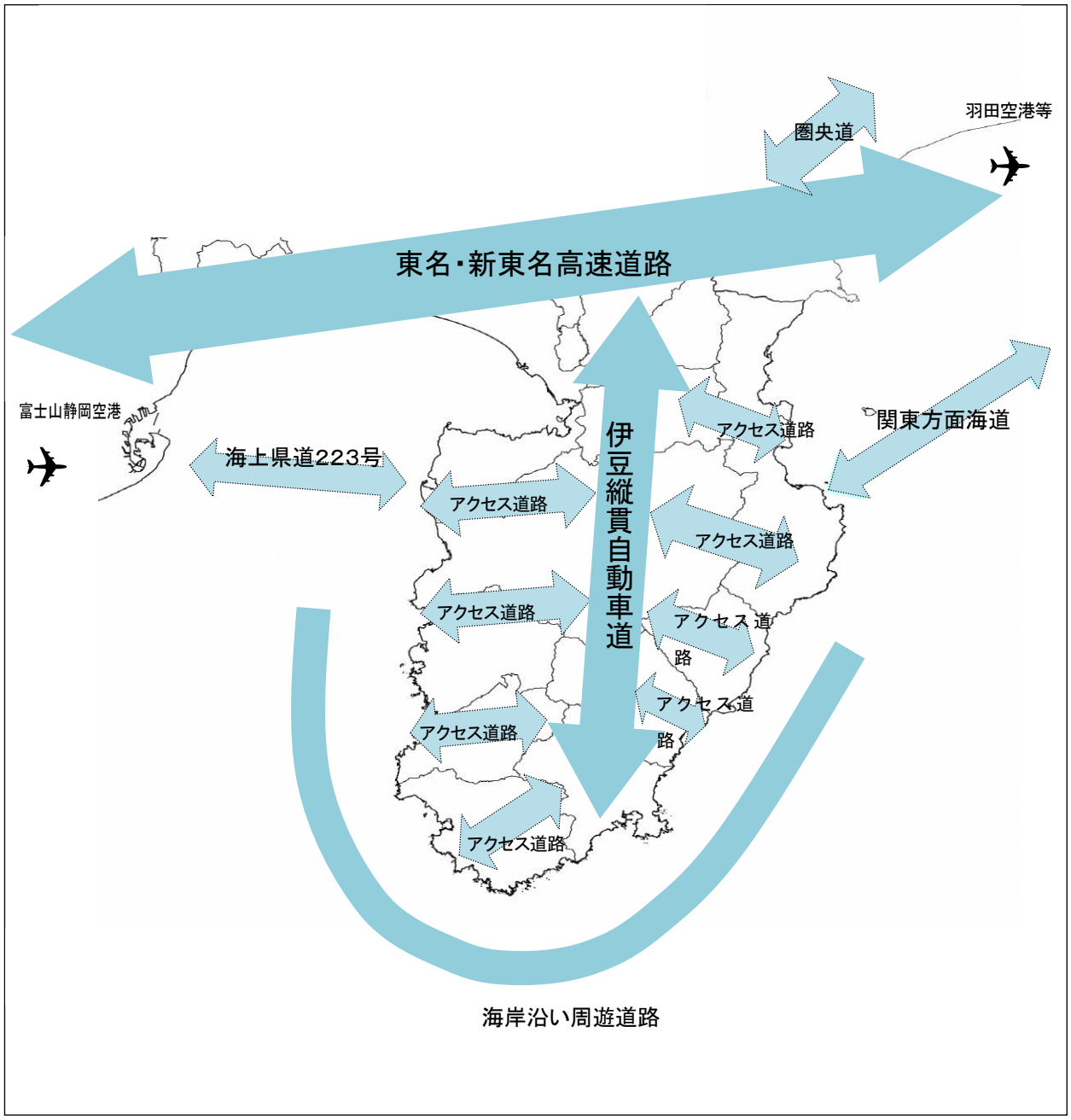
地域構造の展開方向

- ○ 伊豆縦貫自動車道、肋骨道路整備による縦横への展開
- ○ 連携やルート化による周遊的な展開
- ○ 連携による域外への展開
  （富士地域、駿東地域、箱根周辺地域、県中部地域への展開、富士山静岡空港等を介した全国、世界への展開）
- ○ 伊豆半島ジオパーク推進による伊豆全体への展開
- ○ テーマ設定による全域への展開や部分的展開
  （花、歴史（開国・頼朝）、富士山ビュー、文学等）

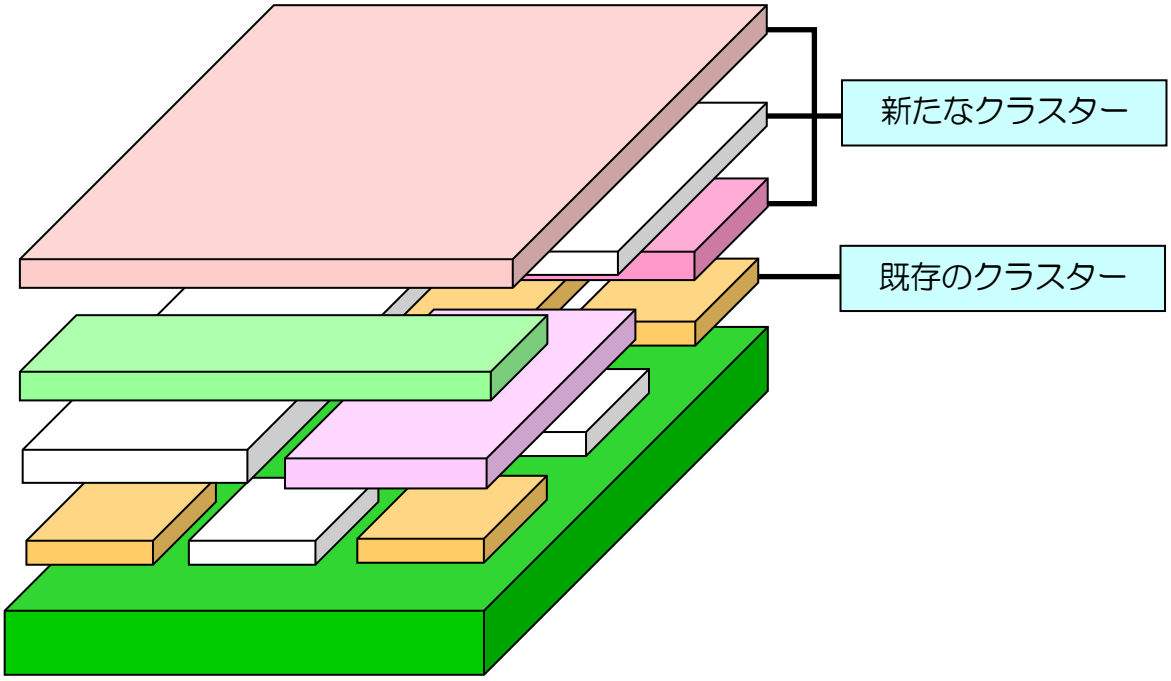
→ 重層的な
クラスター構造へ

※2　クラスター：「房、集団、群れ」のこと。いくつかの単位がまとまって相互に連携しあうこと。

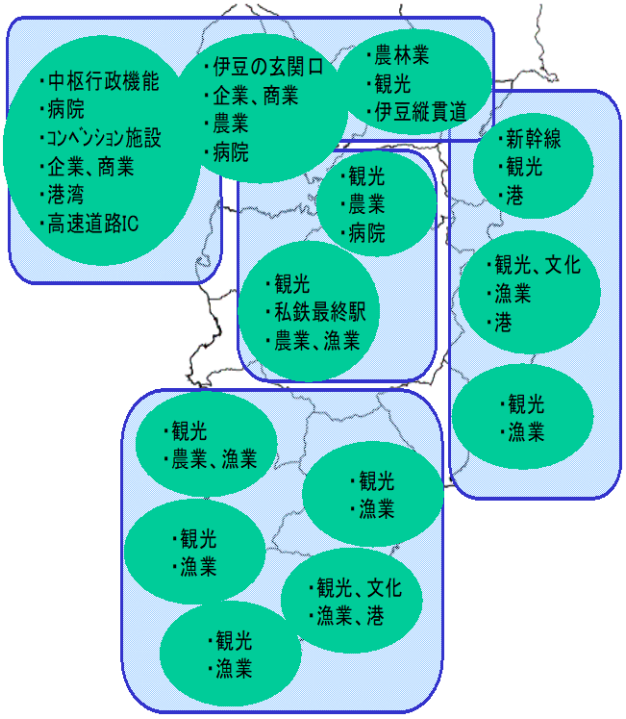
【伊豆の地域構造分析（１）】


羽田空港等
圏央道
東名・新東名高速道路
富士山静岡空港
海上県道223号
伊豆縦貫自動車道
アクセス道路
関東方面海道
アクセス道路
アクセス道路
アクセス道路
アクセス道路
アクセス道路
アクセス道路
アクセス道路
海岸沿い周遊道路

【伊豆の地域構造分析（２）】



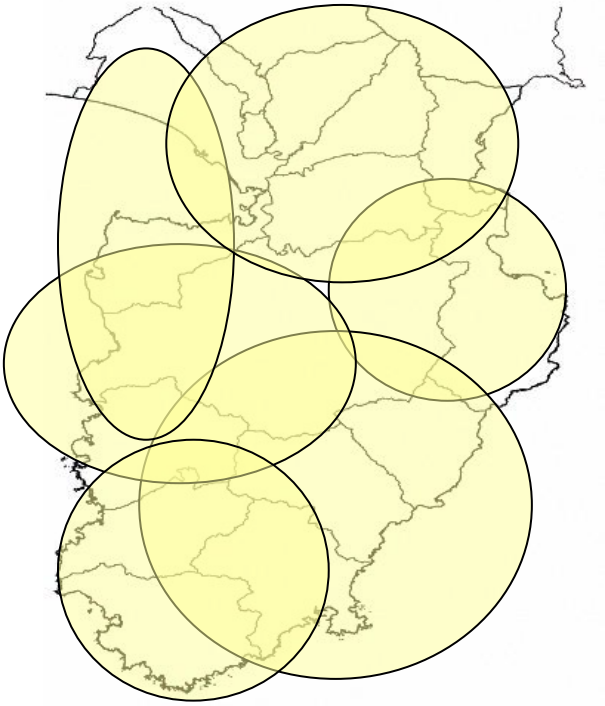
既存のクラスター



○ 各市町の特色
○ 温泉噴出地を中心とした観光地
○ 北部地域の都市機能

分散型のクラスター構造

新たなクラスター



○ 各種テーマ別
○ 産業別（観光関連中心）
○ 新たな交通網を活用（伊豆縦貫自動道等）

重層的なクラスター構造

３．伊豆半島グランドデザインの施策ごとの評価と課題

平成 25 年４月に策定された「伊豆半島グランドデザイン」では、環境変化などを踏まえ、５年程度で実施してきた各施策に対する評価（検証）を行い、グランドデザインの施策の展開や各主体の役割について見直しを図るものとしています。

そこで、今回のグランドデザインの策定に当たり、１３市町への意見照会を踏まえ、これまでの戦略ごとの評価と課題を以下のとおり、とりまとめました。

評価は、「Ａ：順調に進んでいる」、「Ｂ：概ね順調に進んでいる」、「Ｃ：停滞している」の３段階で行いました。

（１）基幹戦略　世界一美しい半島プロジェクト

様々な機会・機能を集約して、環境、営み、人の３面で「美しい半島」をさらに磨きをかけ、伊豆を世界ブランドとして確立・発信し、伊豆の存在感を高めます。

【施策の展開】
- 施策１：伊豆半島ジオパークプロジェクトの推進
- 施策２：地域愛、地域ロイヤリティの醸成と向上
- 施策３：各市町の美しいまちづくりの推進
- 施策４：美しさを阻害するものの戦略的排除
- 施策５：官民の美化活動の活性化・広域化
- 施策６：美しさに関する産業の集積
- 施策７：国際的な健康保養都市づくり

ア　評価

<u>Ｂ：概ね順調に進んでいる</u>

伊豆半島ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定される活動を積極的に行い、認定後も教育、保全、認知、イベントなどの活動を積極的に行ってきました。

美しい半島を更に磨きあげるため、具体的な取組を各市町が特色を出し、行っています。

イ　主な事業成果

施策１　伊豆半島ジオパークプロジェクトの推進

伊豆半島がユネスコ世界ジオパークに認定（平成 30 年）され、ビジターセンターの設置、ジオサイトの整備、案内板の設置等を実施するとともに、ジオパーク推進協議会との連携・協働（運営や各種普及活動など）を進めました。

施策２　地域愛、地域ロイヤリティの醸成と向上

持続可能な地域づくりの担い手の育成を目的とした講座･情報交換会などを開催したほか、小学生、中学生を対象とした伊豆地域の自然・歴史・文化・名物等を知る学習（伊豆学）などを実施しました。

施策３　各市町の美しいまちづくりの推進

ふじのくに美しく品格のある邑への認定を進め、棚田の保全や梅林を活かした地域再生、里山の原風景の保全などに取り組みました。

施策４　美しさを阻害するものの戦略的排除

美しい伊豆半島の具現化のため、県・市町が一丸となって屋外広告物対策を推進（平成 28 年～ 伊豆半島景観協議会）し、「伊豆半島景観形成行動計画」を策定（平成 29 年３月）するとともに、屋外広告物の設置ルールの強化（静岡県屋外広告物条例の改正（平成 29 年 11 月））を図りました。

また、眺望を阻害していた樹木を伐採するなど、景観の改善を行いました。

施策５　官民の美化活動の活性化・広域化

花に関するまちづくり実施計画の策定や推進協議会の設立及び花に関する団体の育成、支援と団体のネットワーク化を実施しました。また、伊豆半島全域で「伊豆半島クリーン作戦」を実施し、環境美化のためにごみゼロクリーン作戦や不法投棄対策、清掃などを行いました。

施策６　美しさに関する産業の集積

ふじのくにフロンティア指定地域内への産業や文化・観光拠点等の集積を図りました。

沼津市　周辺環境と調和した緑豊かで安全・安心な産業集積推進区域
熱海市　「首都圏に一番近い離島・初島」の活力創造推進区域
伊東市　伊豆・いとう地魚王国推進区域
三島市　農業・観光関連施設集積区域、三ツ谷地区新たな産業拠点整備区域、三島玉沢インターチェンジ周辺医療・健康関連産業等集積区域、ゆとりある田園居住区整備促進区域、北沢地区豊かな暮らし空間創生住宅整備区域、三島塚原 IC 周辺ゆとりある田園居住区整備促進区域
伊豆市　「天城北道路」と「道の駅」を生かした地域振興拠点づくり推進区域
伊豆の国市　「世界遺産 明治日本の産業革命遺産 韮山反射炉」及び「江川邸」を核とした歴史文化のまちづくり推進区域、江間工業用開発推進区域
下田市　「春日山及び下田公園地域」交流拡大・防災対策推進区域
東伊豆町　稲取高原特色を生かした観光地づくり推進区域
河津町　河津町子育て文化コミュニティ機能集積推進区域
南伊豆町　南伊豆町差田地区産業集積推進区域
松崎町　道の駅「花の三聖苑」等を活用した起業の学びの拠点創出推進区域
西伊豆町　「安良里地区」防災拠点施設整備推進区域、「田子地区」大学生と地域住民との交流拠点施設整備推進区域
函南町　「道の駅・川の駅」を活用した地場産品活用６次産業化推進区域

施策７　国際的な健康保養都市づくり

マラソン大会、ウォーキング大会を開催したほか、各種健康講座、健康マイレージ事業展開を行いました。

ウ　課題と今後の方向性

伊豆半島の魅力を国内外に発信していくため、伊豆半島ジオパークをはじめとする地域資源の継続的な魅力発信や、住民の地域愛の醸成に向けた地域の歴史・文化に触れる機会の創出、地域の美化活動・美しいまちづくりの担い手の確保のほか、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催のレガシーの創出と活用等が求められています。

引き続き、伊豆半島世界ユネスコジオパークをリーディングプロジェクトとして推進していくとともに、世界文化遺産韮山反射炉や世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」など、世界に誇れる地域資源の魅力の向上と発信に取り組んでいきます。

また、地域の歴史・文化を伝える人材の確保・育成や郷土に根付いた文化・芸術活動、多様な主体との連携・協働による美しいまちづくり・地域の美化活動を推進するほか、東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技開催のレガシーを活かしたサイクルスポーツの聖地づくりに取り組んでいきます。

（２）重点戦略

○重点戦略１　交流産業クラスターの創出と再生

交流者の視点に立ち、交流者に満足を提供するための、より広がりのある産業クラスターの再構築を図ることで、伊豆ブランドを再構築し、域内の雇用の創出及び地域活性化を図ります。

【施策の展開】
施策１：交流産業としての連携強化と地域プロジェクトとしての位置づけの明確化
施策２：ブランディングの推進
施策３：地産地消の推進
施策４：交流コンテンツの創出と情報発信・提供機能の強化
施策５：フィルムコミッションによる美しい半島の発信
施策６：観光地としての安全性の向上
施策７：富士山、箱根との連携
施策８：地域全体でのおもてなし心の醸成

ア　評価

Ｂ：概ね順調に進んでいる

美しい伊豆創造センターを中心に、地域ブランドの商品展開や国内外に向けた伊豆半島地域の魅力発信など、ブランディングの推進及び交流コンテンツの創出等に係る事業を積極的に行いました。

各市町においても、観光プロモーションの実施や地場産品の販売促進等の取組を行いました。

イ　主な事業成果

施策１　交流産業としての連携強化と地域プロジェクトとしての位置づけの明確化

リノベーションによるまちづくりや創業者育成に取り組んだほか、サテライトオフィス事業の展開による地域課題解決可能性調査、古民家活用コワーキングスペースを開設しました。

施策２　ブランディングの推進

「サイクリングリゾート伊豆」を実現するため、環境整備や情報発信等を展開しました。また、世界農業遺産に認定された「わさび」など特産品の地域ブランド化及び販売促進を行ったほか、ＹｏｕＴｕｂｅや都内大型ビジョンで地域資源の情報発信を行うとともに、フィルムコミッション事業による伊豆地域へのロケ等の誘致を行いました。

各市町においても観光ブランドプロモーションの実施や首都圏と地元特産品のコラボレーション、「日本で最も美しい村」連合への加盟などのブランド化促進の取組を行いました。

施策３　地産地消の推進

伊豆半島アンテナショップ「美・伊豆」を設置し、情報の受発信と誘客の促進を図りました。また、伊豆半島の多様な食資源を活用した商品の開発（カップグルメ）を行ったほか、地元高等学校による特産品を活用した商品開発、全国大会への出場、メニュー化を実現しました。

施策４　交流コンテンツの創出と情報発信・提供機能の強化

伊豆半島観光戦略（平成 29 年度）及びアクションプラン（平成 30 年度）を策定しました。

インバウンド事業として、海外イベントへの参加、トップセールス、プロモーション、ファムトリップなどの実施、ＹｏｕＴｕｂｅの活用、多言語サイト・外国人対応職員の配置などを行いました。

国内観光客キャンペーン事業として、ツーリズム EXPO ジャパンなどの国内展示会への出展、観光ＰＲ、商談会等の実施のほか、ＤＣでの商品造成、エクスカーションなど様々な取組を行いました。また、伊豆半島一周サイクリングの開催やコースイベントキャンペーンの実施や、スポーツや文化のイベント、大会、合宿の誘致等を行いました。

施策５　フィルムコミッションによる美しい半島の発信

映画やテレビドラマ等の映像を活用したプロモーションを実施し、現地情報を盛り込んだロケーションライブラリーの更新やロケ地マップによる情報発信を行いました。

施策６　観光地としての安全性の向上

旅館組合との災害協定を締結したほか、地震津波訓練や列車運行時の旅客避難誘導訓練などを実施しました。

施策７　富士山、箱根との連携

ガーデンツーリズム「皇室ゆかりの庭園」の活用、熱海・箱根・草津の観光協会によるサミットの実施、箱根八里（日本遺産認定）の魅力の整備、国内外への情報発信を行いました。

施策８　地域全体でのおもてなしの心の醸成

地元住民・学生による情報発信「ＳＮＳいず自慢」を実施しました。また、外国人観光客の受入体制向上を目的とした観光事業者向け研修会を行ったほか、大学との連携による外国人との交流会や外国人を対象にしたボランティアガイドを実施しました。また、ダイバーシティ研修、地域学習や観光に関する出前講座などを行いました。

ウ　課題と今後の方向性

伊豆半島のユネスコ世界ジオパーク認定や東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技の開催、観光業をはじめとする交流産業を担う人材の不足など、交流産業を取り巻く環境の変化に的確に対応することが求められています。

多様な主体との連携・協働や県境を越えた広域連携の強化、ＩＣＴなどの革新的技術の活用により、地域の魅力発信の機会を捉えた効果的な発信に取り組むとともに、特定の地域に継続的に多様な形で関わり合う「関係人口」の創出・拡大に取り組んでいきます。

また、地域全体でのおもてなしの心の醸成に引き続き取り組むほか、交流産業を担う人材の育成・確保に取り組んでいきます。

○重点戦略２　ネットワーク型交通・都市基盤の整備

地域活力を支え、命の道である伊豆縦貫自動車道、肋骨道路への戦略的投資や陸・海・空のネットワーク化の推進と、医療・コンベンション等の都市基盤の機能連携を図り、生活者、交流者がともに快適な環境を創造します。

【施策の展開】

施策１：命の道としての伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等の優先的な整備
施策２：域内流入拡大のための新規道路整備に向けた環境整備
施策３：快適な道路環境の整備
施策４：公共交通機関の利便性の向上
施策５：首都圏、空港（静岡、羽田等）との接続性の向上
施策６：高次都市機能の構築
施策７：コンベンション機能、医療機能等の都市機能のネットワーク化と機能分化の推進

ア　評価

Ｂ：概ね順調に推移している

命の道となる伊豆縦貫自動車道及び国道 135 号の整備が進められたほか、主要駅舎等のゲートウェイ機能の整備が進みました。

また、観光型 MaaS*3 実証実験実行委員会と連携し、実証実験を実施し、公共交通の利活用促進策の検討を行うとともに、駅構内等の乗換案内の多言語化など交通結節点の機能強化を図り、公共交通機関の利便性向上を図りました。

イ　主な事業成果

施策１　命の道としての伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等の優先的な整備

緊急輸送路である国道 135 号の整備及びその他県道の整備が実施されました。

また、伊豆地域道路シンポジウムを実施したほか、伊豆横断道路として市道矢熊・筏場線の拡幅に向けた要望活動を行いました。

施策２　域内流入拡大のための新規道路整備に向けた環境整備

伊豆湘南自動車道路などの整備促進等の要望活動及び東名高速サービスエリア、東京駅バスターミナル等での情報発信を行いました。

施策３　快適な道路環境の整備

東名高速サービスエリアや東京駅バスターミナル等を活用した情報発信などを行うとともに、静岡県屋外広告物条例に基づく違法看板の是正指導を実施しました。

施策４　公共交通機関の利便性の向上

「東伊豆・中伊豆地域公共交通網形成計画」を策定（平成 30 年３月）するとともに、観光型 MaaS 実証実験実行委員会と連携し、実証実験を実施しました。

また、「南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会」による公共交通の利用促進策の検討を行ったほか、修善寺駅構内及び駿河湾フェリー乗り場（伊豆市土肥）の交通結節点の機能強化（乗換案内（デジタルサイネージ）、多言語化）を図りました。

施策５　首都圏、空港（静岡、羽田等）との接続性の向上

「環駿河湾観光交流活性化協議会」に参加し、駿河湾フェリーの販売促進を実施しました。

※３　MaaS：Mobility as a Service
運営主体を問わず、情報通信技術を活用することにより自家用車以外の全ての交通手段による移動を１つのサービスとして捉え、シームレスにつなぐ新たな『移動』の概念

施策６　高次都市機能の構築

主要駅舎等のゲートウェイ機能充実（鉄道高架化、駅周辺整備）を図りました。

また、医療系人材養成校（医学部、看護師養成校等）等の誘致・文化施設等の再整備を行いました。

施策７　コンベンション機能、医療機能等の都市機能のネットワーク化と機能分化の推進

ふじのくに千本松フォーラム　プラサヴェルデの利活用促進を図りました。

また、「病・病」「病・診」「医・福」等施設間の広域ネットワーク化を推進し、在宅医療に特化した「静岡県在宅医療・介護連携情報システム　シズケア＊かけはし」（管理運営：静岡県医師会　静岡県在宅医療推進センター）の活用による関係者間での情報共有を促進しました。

ウ　課題と今後の方向性

命の道として地域の骨格となる伊豆縦貫自動車道の着実な事業推進と、既開通区間の開通効果を早期に地域全体に波及させるための道路ネットワークの整備推進のほか、誰もが訪れやすく、住みやすい地域づくりのための公共交通機関の利便性向上や高次都市機能の構築・拡充が求められています。

伊豆縦貫自動車道の早期整備を促進していくとともに、アクセス道路の整備を推進していきます。

また、陸・海・空のネットワーク化の推進と、主要駅舎等のゲートウェイ機能の充実等に取り組んでいきます。

○重点戦略３　柔硬一体のしなやかな防災・減災対策の構築

伊豆半島ジオパークの防災教育機能を最大限活用するとともに、国・県・市町等の主体間の連携、発災前後のハード面及びソフト面における一体的な対策の推進により、南海トラフ等の大規模地震等に対して、生活者及び交流者の安全を最優先に伊豆全域がしなやかに対応することで、伊豆の安全性を向上させます。

【施策の展開】

施策１：県策定の「地震・津波対策アクションプログラム」に基づく災害対策の推進
施策２：交流者を含む避難誘導対策の徹底
施策３：防災・減災に向けた広域的な展開
施策４：命の道の優先的な整備（伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等）
施策５：伊豆版櫛の歯作戦に基づく協力体制の構築
施策６：観光地としての安全性の向上
施策７：伊豆半島ジオパークの活用等による防災意識の向上

ア　評価

Ｂ：概ね順調に進んでいる

各市町において地震・津波対策アクションプログラムを策定・推進したほか、列車運行時の旅客避難誘導訓練の実施や、静岡県の総合防災訓練での観光客の避難誘導訓練の実施など、観光防災に関する取組を行いました。

イ　主な事業成果

施策１　県策定の「地震・津波対策アクションプログラム」に基づく災害対策の推進

市町による地震・津波アクションプログラムを策定し、推進しました。

施策２　交流者を含む避難誘導対策の徹底

避難勧告等に関するガイドラインの改訂を行い、土砂災害ハザードマップを作成したほか、駿豆線沿線地域活性化協議会で列車運行時の旅客避難誘導訓練を実施しました。

施策３　防災・減災に向けた広域的な展開

消防本部の広域化（駿東伊豆消防本部、富士山南東消防本部、下田消防本部）を行いました。

また、静岡県総合防災訓練において、観光客の避難誘導訓練を実施しました。

施策４　命の道の優先的な整備（伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等）

命の道となる伊豆縦貫自動車道等における要望活動を実施しました。

施策５　伊豆版櫛の歯作戦に基づく協力体制の構築

櫛の歯作戦における建設業協会等との連携・調整を行うとともに、沿岸域の地形等の更なる安全度の向上を図る「静岡モデル」の整備に向けた検討と、防潮堤の嵩上げ整備を実施しました。

施策６　観光地としての安全性の向上

観光防災の観点から、伊豆市「海とともに生きる　観光防災まちづくり推進計画」を策定し、土肥地区を「津波災害特別警戒区域（オレンジゾーン）」に指定したほか、防災拠点としての道の駅「伊豆月ヶ瀬」に防災備蓄倉庫を整備しました。

施策７　伊豆半島ジオパークの活用等による防災意識の向上

ジオガイドの教育・啓発活動の中で、防災意識を持った人材育成を行いました。

ウ　課題と今後の方向性

地域に住む人も地域を訪れる人も安全・安心で快適に過ごすことができるよう、地震・津波や、近年頻発する台風・大雨などの大規模自然災害への備えの充実に加えて、県内でも特に人口減少・少子高齢化が進む中にあっても持続可能な地域づくりを進めることが求められています。

引き続き「地震・津波対策アクションプログラム」に基づく地震・津波対策を進めるとともに、大規模自然災害を見据えた防災・減災対策の充実を図っていきます。

また、様々なライフステージに応じた福祉の充実を図るため、地域医療体制の確保や地域包括ケアシステムの推進に取り組んでいきます。

○重点戦略４　官・民協働による推進体制の再構築

伊豆が一体的な地域づくりに取り組むためのコーディネート機能等の推進機能強化及び戦略の推進を担う人材・組織を育成することで、地域づくりの目標実現に向けた戦略展開の確実な推進と、効率性・効果性の向上を図ります。

【施策の展開】
施策１：各種協議会等の整理（統廃合）と協議会の事務局機能の集約、効率的運営
施策２：伊豆の未来に必要な人材・組織の育成
施策３：行政機能の連携に関する検討（広域連合を含めた将来課題としての検討）

ア　評価

Ｂ：概ね順調に進んでいる

「伊豆半島グランドデザイン」の推進組織として任意団体 美しい伊豆創造センターを設立（平成 27 年４月）し、日本版ＤＭＯ法人の登録に向け一般社団法人 美しい伊豆創造センターを設立しました（平成 29 年２月、ＤＭＯ法人登録平成 30 年７月）。

業務の合理性及び効率性の観点から、任意団体と一般社団法人を統合し（平成 31 年４月）、「伊豆半島グランドデザイン」の推進に係る事業展開を行っています。

イ　主な事業成果

施策１　各種協議会等の整理（統廃合）と協議会の事務局機能の集約、効率的運営

「伊豆半島グランドデザイン」の推進組織として任意団体 美しい伊豆創造センターを設立（平成 27 年４月）しました。また、日本版ＤＭＯ候補法人の登録を受け、一般社団法人 美しい伊豆創造センターを設立し（平成 29 年２月）、同一般社団法人は平成 30 年７月 31 日に日本版ＤＭＯに登録されました。

同名の組織が併存する形となっていましたが、業務の合理性・効率性の観点から、平成 31 年４月に任意団体と一般社団法人を統合しました。

施策２　伊豆の未来に必要な人材・組織の育成

各市町において、まちあるきガイドの養成講座の実施や起業家や地域を担う人材の育成を目的とした未来塾の開講、また、小学校授業におけるジオガイドの活用などの取組を行いました。

施策３　行政機能の連携に関する検討（広域連合を含めた将来課題としての検討）

広域連携の取組としては、賀茂地域広域連携会議における各種行政項目の共同事業化について、引き続き教育委員会の共同設置や若者移住定住等の分野の議論及び検討が進められました。

ウ　課題と今後の方向性

伊豆半島の魅力の国内外への発信強化や、地域づくりのための施策の戦略的な推進のためには、地域の魅力発信や施策推進を担う体制の強化が必要です。

地域づくりを担う人材・組織の育成を引き続き進めるほか、各種広域団体との役割分担を明確化し、より効果的な連携体制を構築していきます。

第２章　伊豆のグランドデザイン

１．称賛され続ける世界一美しい半島へ

（１）基本理念としての「美しさ」の追求

地域づくりを進める上での時間軸は、大別すれば二つあります。中期・短期で地域を振興する地域づくりと、百年の計としての長期・超長期の地域づくりです。

前者は、その時々の課題・社会情勢・需要に的確に対応し、地域を元気にし雇用を創出することなどを目的とします。

後者は、時代を超えてぶれない意思や地域愛にも近い地域の独自性（アイデンティティ）を形作っていくものです。

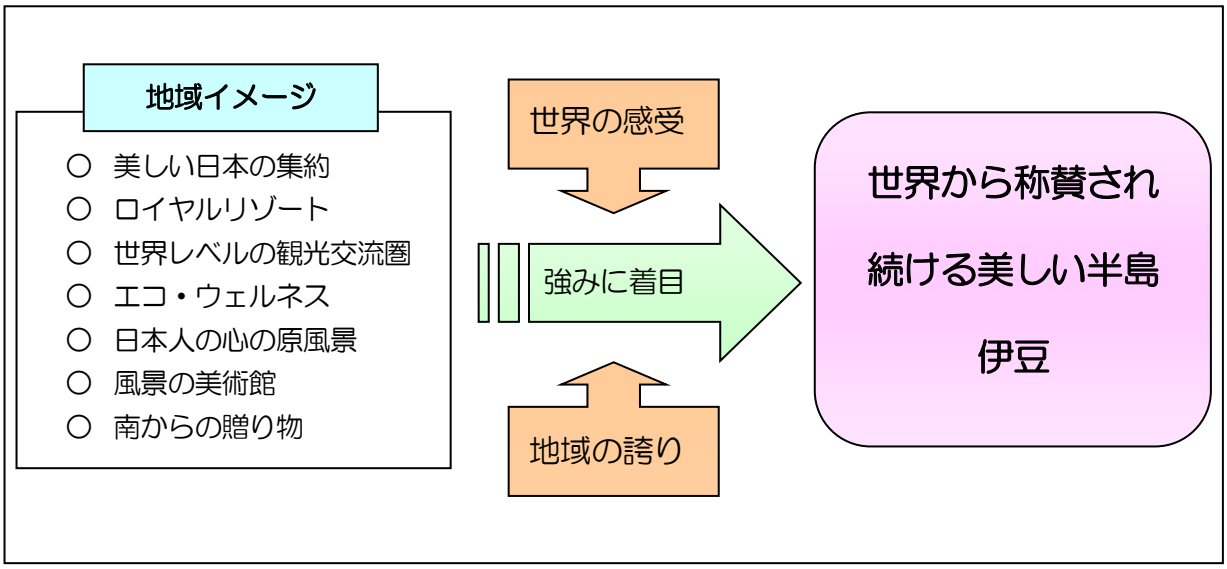
私たちは、未来に向かい、伊豆を伊豆たらしめる価値を見出し、それを大切にした地域づくりを進めます。それは伊豆を一つにするキーワードともなります。

伊豆におけるそれは、「美しさ」です。川端が、「大きな一つの公園である。美しさの変化がある。」と称したように、伊豆の最も特徴的な特質・価値は、「美しさ」であり、最大の強みです。

美しさを世界的レベルまで高めることが、世界の中での伊豆の存在意義（プレゼンス）を高めるとともに、そのことがまた若者も含めた未来の住人の誇りに帰結していきます。

同時に、今を生きる私たちは世界的な地域間競争を勝ち抜く必要がありますが、世界的に優位な強みである「美しさ」は、その際の差別化を実現し、さらにヒト・モノ・カネ・情報を伊豆に呼び込む求心力・発信力を有しています。

このため、私たちは伊豆を「世界から称賛され続ける美しい半島」にしていくことを地域づくりの基本理念とし、また目標とします。



（２）美しい半島の具体的な姿

美しい地域は、伊豆以外にもあります。しかし、伊豆には「伊豆らしく」・「伊豆だからこそ」の美しさがあり、そのことにより多くの人から称賛され、また憧れる地となってきました。

伊豆らしい美しさは、変化に富み多様性を有する自然環境はもちろんのこと、視覚的に捉えられる外見的な美しさのみならず、そこに暮らす人々が活き活きと生活し、伊豆独自の文化を形成するという内面的な美しさが、それぞれに結びつく中で輝き放たれています。

本グランドデザインでは、環境・営み・人における美しさに着目し、それぞれを高め、また結び付ける中でさらに美しい半島を目指します。

美しく変化に富む環境	地形、地質、動植物の多様性と相違性、潤いや品格を感じ取れる優れた都市的環境や集落の美しさ
美しく品格のある営み	美しい環境を構成する資源を起源として生まれた文化・生活様式、産業等の美しさ
美しく健やかな人	住まう人、訪れる人の心の充足や健康的な活動などの人としての美しさ

【美しい半島の具体的な姿】

美しく変化に富む環境	美しく品格のある営み	美しく健やかな人
○ 伊豆半島ジオパークとして世界的に特異な地形の歴史 ○ 学者も認める生物の多様性 ○ 美しく感動的な朝日・夕日 ○ 変化に富む海岸と森林 ○ 潤いのある都市環境 ○ 四季を通じた花の名所 ○ 品格のある街並みや集落	○ 宿泊施設の優れたもてなしやしつらえ ○ わさび田、棚田等箱庭的な一次産業 ○ 多彩な創作活動、芸術活動 ○ 住民によるまちづくり活動（グランドワーク活動等）	○ 健康、長寿を支える食材 ○ 登山、サイクリングコース等のスポーツ文化 ○ 心と体を癒す温泉や花 ○ 健康保養地づくり、かかりつけ湯等の癒しと健康

（３）伊豆が提供していく価値

私たちが、美しい伊豆を創造していく上で、大切にしていく価値（バリュー）として次の４つを提案します。これらの価値とは、各主体が地域づくりに取り組む際の共通した認識となり、また行動指針となるものです。また、地域外の人にとっては、その地域から何を得ることができるかという期待となります。

価値を提供するとは、地域外の人に対してその中身や品質などを約束するものであることから、私たちはそのための最大限の努力を続けていくこととします。

【伊豆が提供していく価値】

美しさへの感動	世界有数と評される変化のある自然、それに関係を持つ営みや人々の暮らしぶりに触れ感動する
日本の縮図の体感	富士山、山間部・沿岸部の四季の彩り、歴史・文学・伝統等、日本の縮図を体感する
心地よいふれあい	施設でのおもてなし、イベントでの時間の共有、街中でのやりとりなど、人とのふれあいを楽しむ
心と体の充足	美しいものを眺め、きれいな空気、新鮮食材、温泉、癒しやスポーツ体験を通じ、心と体の健康、元気を回復・向上する

２．戦略展開の基本的考え方

（１） 戦略の意義

伊豆が目指す地域の目標像を効率良くかつ確実に実現していくためには、効果的な施策を展開していく戦略が必要です。本グランドデザインでは、次の三つの視点で戦略を構築しています。

① 長期的、中短期的視点を同時に推進する戦略

長期的視点と中短期的視点との二つの地域づくりの目標を同時に進行する戦略であり、それぞれを有機的に結び付け、一体的に推進する戦略体系とします。戦略は、５年程度の具体の戦術を取りまとめます。

② 各地域の地域づくりの方向性を集約し、誘導する戦略

各市町の計画と本グランドデザインは、上位、下位の関係はなく、また、法的拘束力もありませんが、各市町の地域づくりの方向性を集約して策定し、今後の各市町の地域づくりに影響を与え、誘導していく戦略とします。

③ 多様な主体の参加による戦略

単に行政が行うものに留まらず、住民・ＮＰＯ・事業者、さらには来訪者も含めた様々な主体に参加を呼び掛け、推進する戦略とします。

【本グランドデザインにおける戦略の特性】

長期的視点と中短期的視点を同時に推進する戦略

各地域の地域づくりの方向性を集約し、誘導する戦略

多様な主体の参加による戦略

（２）戦略展開の基本姿勢

各主体が地域づくりを行う際の地域としての一体性を確保していくために、主体間で共有していく基本姿勢を示します。

① 競争を超えた連携（多様性の尊重と統一への協力）

地域の多様な個性を尊重し、それぞれが切磋琢磨し、競争をすることを前提にしながら、その上でその競争を超えて、地域間が戦略的に連携を図る姿勢で戦略を推進します。

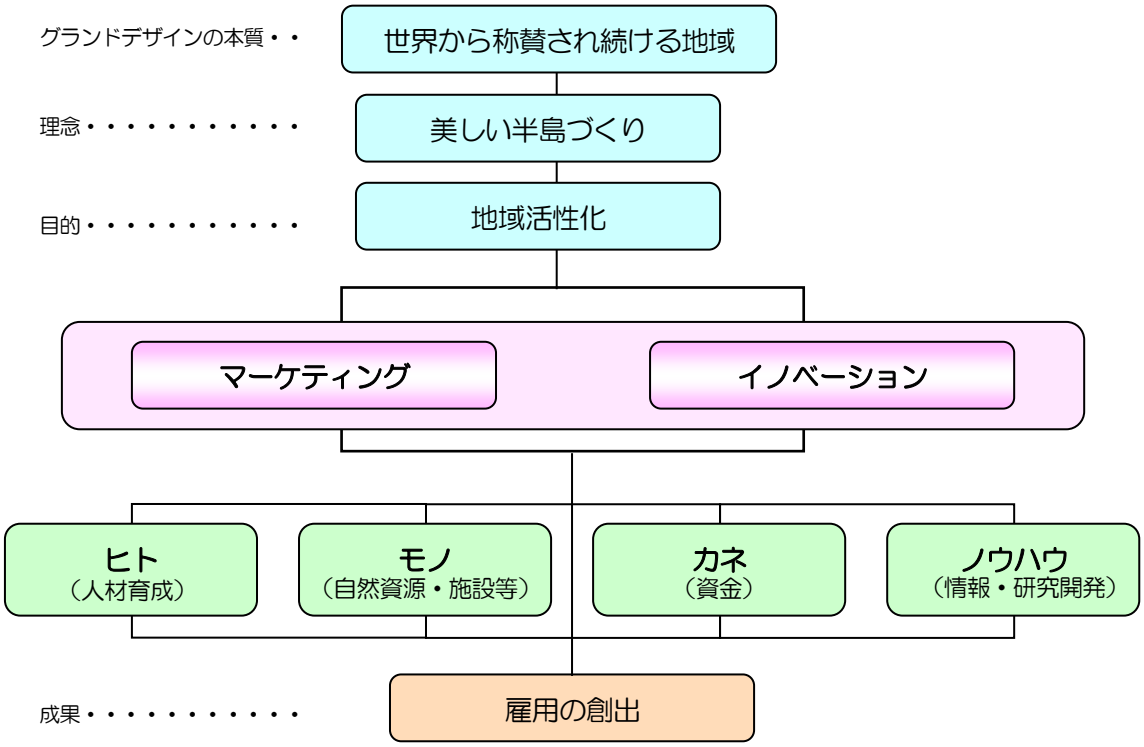
② マネジメントに基づく展開（マーケティング[*4] とイノベーション[*5]）

伊豆全体及び各地域・各主体が、今までにないやり方や仕組みで新たな価値を提案し、また、顧客・来訪者の立場から施策を立案・展開する姿勢で戦略を推進します。

③ 主体的な行動（各セクションの責任ある実行と攻めの連携）

何より重要なのは、自らが行動することであり、依存から自立・協力へ姿勢を転換して戦略を推進します。また、連携においても依存・守りではなく、主体・攻めの姿勢で戦略を推進していきます。

【マネジメントに基づく展開】



※4　マーケティング：顧客満足を軸に「売れる仕組み」を考える活動。顧客のニーズを的確につかみ、需要の増加と新たな市場開発を図る企業等の諸活動

※5　イノベーション：物事の「新機軸」「新しいやり方」「新しい活用法」を創造する行為のこと。それまでの仕組みなどに対して全く新しい考え方や技術を取り入れ、新たな価値を生み出すこと

（３）戦略の構成

本グランドデザインでは、長期では、世界から称賛され続ける美しい半島にすることを目指し、中短期では、長期の目標の実現を着実に推進するために、観光にかかわる産業の活性化を第一次目標とした交流の拡充及び定住の促進を目指すこととします。そのため、戦略は時間軸・目標の異なる二つの戦略体系に区分し、前者を基幹戦略、後者を重点戦略としてそれぞれを有機的に結び付け、一体性を確保し推進していきます。

① 基幹戦略

伊豆半島を、世界一美しい半島に高め、それを永続的に継承することを目標に戦略を展開していきます。改定前のグランドデザインにおいて基幹戦略の中心に設定した伊豆半島ユネスコ世界ジオパークをリーディングプロジェクトとして継続的に推進するとともに、景観を阻害する電柱・看板等の撤去、各市町の取組の拡充等について、息の長い着実な展開を図ります。

〇世界一美しい半島プロジェクト

② 重点戦略

雇用の創出を図り、交流の拡充と定住を促進するため、その喫緊の課題でもある産業創造、基盤整備、安全・安心の３分野及び組織戦略を加えた４戦略を集中して推進します。

〇交流産業クラスターの創出と再生
〇ネットワーク型交通・高次都市機能の構築
〇安全・安心な生活の実現
〇官民協働による施策の推進

【戦略の構成】

３．美しい伊豆創造センターの設立

平成 27 年４月、伊豆半島グランドデザインの推進組織として、伊豆半島 13 市町により、「任意団体 美しい伊豆創造センター」が設立されました。

平成 29 年 2 月には「一般社団法人　美しい伊豆創造センター」が設立され、２つの組織が併存している状況で、事業が実施されてきましたが、任意団体が解散し、平成 31 年４月から、新たな「一般社団法人美しい伊豆創造センター」（以下「美伊豆」という。）として、活動を開始したところです。

①　観光地域づくり法人（ＤＭＯ）

美伊豆は、国土交通省観光庁が観光地の舵取り役として全国各地での設立を推進している「日本版ＤＭＯ*6」に登録申請し、平成 30 年７月末日付でＤＭＯ法人登録されています。

日本版ＤＭＯが必ず実施する基礎的な役割･機能（観光地域マーケティング･マネジメント）としては、⑴日本版ＤＭＯを中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成、⑵各種データ等の継続的な収集･分析、データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略（ブランディング）の策定、ＫＰＩの設定･ＰＤＣＡサイクルの確立、⑶関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整･仕組み作り、プロモーションが挙げられます。（国土交通省観光庁ＨＰ）

②　旅行業登録の取得

美伊豆は、令和２年度に第二種旅行業登録を取得することとしており、自主財源確保や域内の新しい観光素材の流通促進を目的や必要に応じて旅行商品化できることを目指していきます。

③　美伊豆に求められる役割

伊豆半島全体の観光振興における課題解決のために、美伊豆に求められる役割は伊豆半島グランドデザインで求められている「マーケティング」「イノベーション」「マネジメント」であり、日本版ＤＭＯでも充足する必要のある役割です。

※6　日本版ＤＭＯ：地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人

【美伊豆のＤＭＯ戦略】

美伊豆は、伊豆半島グランドデザインをベースとして平成 29 年度に「伊豆半島観光戦略」を策定し、DMO として取り組むべき役割を、大きく、①マーケティング、②イノベーション、③マネジメントの３本柱としています。

マーケティング

- ✓ 顧客満足を軸に「売れるしくみ」を考える活動
- ✓ 顧客のニーズを的確につかみ、需要の増加と新たな市場開発を図る諸活動

«アクションプラン»

- DMOとして取り組むべきマーケティング方策の検討と展開
- 伊豆半島の魅力を発信し、誘客に結びつけるためのデータに基づく効果的なプロモーションの実施
- KPI の測定と PDCA サイクルの運用
- マーケティング・プロモーションを効果的に実施するための各種関係者とのリレーション構築

イノベーション

- ✓ それまでの仕組みなどに対して全く新しい考え方や技術を取り入れ、新たな価値を生み出すこと

«アクションプラン»

- 伊豆半島内で観光産業に携わる事業者と、エリア内外の事業者とのマッチングの推進
- 金融機関や教育機関等と連携した人材育成プログラムの展開
- 金融機関やノウハウを有する事業者等の連携した、事業者の生産性向上のための助言、生産性向上に資するツール・サービスの紹介

マネジメント

- ✓ 「ヒト」「モノ」「カネ」「ノウハウ」といった資源を活用して観光地経営を行うこと
- ✓ これらを通じて観光地としての持続可能性を確保すること

«アクションプラン»

ヒト

- 関係者間の連携・合意形成の推進
- 観光振興に関する機運醸成

カネ

- 域内関係者が活用できる補助金制度等の情報提供と申請支援・連携

«アクションプラン»

ノウハウ

- ジオ教育プログラム等、地域資源を活用したプロダクト開発
- インバウンド受入環境の整備

モノ

- 伊豆半島内の地域資源、体験コンテンツ、イベントのデータベース化と情報発信

第３章　戦略計画

１．基幹戦略　世界一美しい半島プロジェクト

◆戦略のねらい

地域づくりの目標である美しい半島をつくりあげる基幹となる戦略として、様々な機会・機能を集約して、環境、営み、人の３面で「美しい半島」にさらに磨きをかけ、伊豆を世界ブランドとして確立・発信し、伊豆の存在感を高めます。

◆施策の展開

施策	実施主体
○伊豆半島ユネスコ世界ジオパークの推進 （リーディングプロジェクトとして、保存・継承のための仕組みを含め強力に推進）	伊豆半島ジオパーク推進協議会（以下「ジオ協」という。） 関係者等
○世界に誇れる地域資源の魅力の向上と発信 ・世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産　韮山反射炉」の価値の保存と継承 ・「静岡水わさびの伝統栽培」を活用したブランド力の強化やわさび田保全の意識醸成	首長会議 美伊豆 市町 事業者 県　国
○サイクルスポーツの聖地づくり ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技のレガシーの創出と活用 ・スポーツイベント等の誘致・開催を通じた国内外との交流の拡大	美伊豆 県　市町 事業者・民間団体
○地域愛、地域ロイヤリティの醸成と向上 ・「伊豆学」の学習機会の提供 ・学校教育における地域愛を育む取組	市町 教育機関 地域住民
○文化・芸術活動の推進 ・郷土文化・伝統文化の継承、仏像など文化財の保護・活用 ・文学作品の創出等を通じた地域の文化の創造・発信 ・芸術活動の集積化（アトリエ、ミニ美術館）	市町 教育機関 地域住民 県
○美しいまちづくりの推進 ・各市町の施策の強化、広域的展開の検討 ・伊豆としての情報の共有 （例）スマートウエルネス、美しく品格のある邑	市町 首長会議 地域住民 民間団体
○美しい半島の景観形成 ・伊豆半島景観形成行動計画に基づく取組 ・違反広告物の是正指導 ・国道沿線等の空き家等への対応 ・美しい景観を広くＰＲするための眺望景観の認定	美伊豆、ジオ協 市町 事業者 県 国

施策	実施主体
○官民の美化活動の活性化・広域化 ・花いっぱい、ゴミ拾い、アダプトシステム等の活性化と連携 ・河津桜等、花回廊づくり（フラワーデザインの策定と植樹等）	首長会議 市町 運動実施主体
○美しさに関係する産業の集積 ・ファルマバレープロジェクト、ふじのくにのフロンティアを拓く取組と連携した医療健康産業等の誘致	ＰＶＣ*7 県 市町
○　国際的な健康保養都市づくり ・温泉の活用（「新・湯治」など） ・ワーケーション、テレワーク誘致などの取組 ・医療観光・福祉観光の推進 ・市町の健康づくり活動の充実・強化	協議会 市町 ＰＶＣ

※7　ＰＶＣ：公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構　ファルマバレーセンターの略

【伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク】

○ジオパークとは

ジオパークは世界遺産などと同様に、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が推し進めているプログラムです。

ジオパークでは、地形地質遺産とそれに関する自然遺産の保護保全、地域文化の継承、学校教育や生涯学習における教育実践（地球科学、環境、防災減災等）、サスティナブルツーリズム（持続可能な観光）の推進を通じて持続可能な開発が実践されています。

ジオパークは平成 27 年からユネスコの正式プログラムとなり、伊豆半島ジオパークは平成３０年４月に、ユネスコ世界ジオパークとして認定を受けました。

○伊豆半島ジオパークが目指すサスティナブルツーリズムの在り方

伊豆半島の地域性を尊重した観光開発をジオパーク及びサスティナブルツーリズムの文脈において推進することにより、将来世代も現世代と同様に伊豆半島の自然環境と地域文化を観光で親しみ続けることができるような地域を目指すために、以下の５点を伊豆半島ジオパークのサスティナブルツーリズムポリシーとして定めています。

① 火山でできた伊豆半島の大地とそこで育まれてきた動植物・文化を尊重する。
② 伊豆半島の自然を保存し、文化を継承する。
③ ヒト・モノ・カネ・情報・エネルギーの域内循環を向上させる。
④ 観光業におけるサービス向上、雇用創出、所得増加、事業継続を目指す。
⑤ 責任ある旅行者が伊豆半島の自然と文化を満喫できる時間と空間を提供する。

２．重点戦略

（１）交流産業クラスターの創出と再生

◆戦略のねらい

観光業にとり、きわめて重要な交流者の視点に立ち、交流者に満足を提供するための、より広がりのある産業への再構築を図ることで、伊豆のブランドを再構築し、魅力ある雇用の場の創出及び地域活性化を図ります。

なお、ここでいう交流産業とは、①来訪者と地域住民の交流、②地域住民同士の交流、③来訪者同士の交流を促進する産業とします。

◆施策の展開

施策	実施主体
○交流産業としての連携強化と地域プロジェクトとしての位置づけの明確化 ・県事業としての産業クラスタープロジェクトの検討・推進 ・機能連携の強化、コーディネート機能、コラボレート機会の創出（異業種交流、ＮＰＯ参加等）	美伊豆 県 事業者・民間団体
○ブランディングの推進 ・階層的ブランド戦略（トップ・セカンドブランド等） ・クオリティー確保のための仕組みづくり ・メディアミックスによるプロモーション充実	首長会議 美伊豆 市町 事業者・民間団体
○交流コンテンツの創出と情報発信・提供機能の強化 ・観光テーマの広域的展開（花回廊、食の都、「皇室ゆかりの庭園」ツーリズム等） ・ＭＩＣＥ*8の推進 ・フィルムコミッションによる美しい半島の発信 ・海事観光コンテンツの磨き上げ（海の駅、マリンチック街道等）	首長会議 美伊豆 市町 事業者・民間団体
○　ＩＣＴ（情報通信技術）活用 ・ビックデータ活用 ・ＯＴＡ（Online Travel Agent）の取り入れ ・デジタルマーケティング ・ＳＮＳ、YouTube などの活用	美伊豆 市町 事業者・民間団体
○東京２０２０オリンピック・パラリンピック　自転車競技伊豆開催のレガシー創出 ・サイクリングリゾート伊豆 ・サイクリングロードの整備（太平洋岸自転車道）	美伊豆 県　市町 事業者・民間団体
○農林水産業の振興 ・地産地消の推進 ・水産物の流通改革や６次産業化・ブランド化の推進	市町 事業者 県

施策	実施主体
○富士山、箱根との連携の強化 ・富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議、山静神三県広域問題協議会等の活用	協議会 市町 県
○関係人口の創出と拡大 ・地域情報の発信力強化 ・地域を訪れ、地域を体験・交流する活動の促進	市町 民間団体 県
○交流産業を担う人材の育成・確保 ・事業者と学生とのマッチング支援 ・観光業に携わる若手従業員の定着促進	市町 事業者 県
○地域全体でのおもてなしの心の醸成 ・教育機関等による学習機会の提供	市町 教育機関　地域住民

※8　ＭＩＣＥ：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行：Incentive Travel）、国際機関等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のこと

（２）ネットワーク型交通・高次都市機能の構築

◆戦略のねらい

地域活力を支え、命の道である伊豆縦貫自動車道、肋骨道路への戦略的投資や陸・海・空のネットワーク化の推進と、コンベンション等の高次都市機能*9の構築・充実を図り、生活者、交流者がともに快適な環境を創造します。

◆施策の展開

施策	実施主体
○命の道としての伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等の優先的な整備 ・緊急輸送路をはじめとした道路ネットワーク（道の駅を含む）の整備と強靭化 ・山間部等の追い越し車線の整備	首長会議 市町 県　国 民間団体
○域内流入拡大のための新規道路整備に向けた環境整備 ・伊豆湘南道路等の整備促進（要請）	首長会議 市町　県
○快適な道路環境の整備 ・道路周辺の美化 ・道路景観の整備 ・地域の花を活用した道路名等の検討（既存道路含む） ・道路上での情報発信機能の強化（道の駅の活用等）	首長会議 市町 県 国
○公共交通機関の利便性の向上 ・鉄道のアクセス性向上（新幹線・鉄道・バスの接続等） ・鉄道・バスのＩＣカード全国共通利用化への対応 ・伊豆半島の周遊を可能とする路線バスの運行	首長会議 市町 県 事業者
○首都圏、空港（静岡、羽田等）との接続性の維持・向上 ・駿河湾フェリーの活用による県中部地域、富士山静岡空港との接続性の維持・向上 ・鉄道、バスなどの直行便、乗り継ぎ向上 ・海路による東京、伊豆七島等へのアクセス性向上	首長会議 市町 県 国
○高次都市機能の構築・拡充 ・主要駅舎等のゲートウエイ機能の充実（鉄道高架化、駅舎周辺整備） ・高等教育機関等の誘致 ・文化施設等の再整備 ・ふじのくに千本松フォーラムの活用	首長会議 市町 県 事業者

※9　高次都市機能：行政、教育、文化、情報、商業、交通、レジャーなど住民生活や企業の経済活動に対して、各種のサービスを提供する都市自体が持つ高いレベルの機能で、都市圏を越え、広域的に影響力のある機能

（３）安全・安心な生活の実現

◆戦略のねらい

市町・県・関係者が連携し、ハード・ソフトの両面からの一体的な防災・減災対策の推進や、様々な世代に応じた福祉の充実に取り組むことにより、想定される南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害や人口減少・超高齢社会に対して、伊豆全域がしなやかに対応することで、安全・安心な生活を実現します。

◆施策の展開

施策	実施主体
○「地震・津波対策アクションプログラム 2013」に基づく災害対策の推進 ・津波対策施設の整備、公共施設の安全性確保 ・防災訓練の充実・強化 ・防災活動を支える人材の育成	県 市町 民間団体
○防災・減災に向けた広域的な展開 ・消防救急の広域化の推進 ・防災拠点の整備 ・広域訓練の実施	県 首長会議 市町 地域住民
○命の道の優先的な整備（伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等） ・災害時に必要な道路としての早期完成を推進 ・災害発生時の活用が想定できる道路の重点整備	県 首長会議 市町　国　民間団体
○「静岡県東部地域における道路啓開基本方針」等に基づく協力体制の構築	国　県 首長会議
○観光地としての安全性の向上 ・学校、住民、企業等への防災教育の徹底 ・交流者を含む避難誘導対策の徹底と帰宅困難者対策の充実 ・安心して訪れることのできる地域を全国にアピール ・災害時の観光情報の集約	首長会議 美伊豆 市町 教育機関
○伊豆半島ジオパークの活用等による防災意識の向上 ・自然を知るための教材としての防災教育への活用 ・学校教育における体験学習	ジオ協 教育機関
○地域医療体制の確保・地域包括ケアシステムの推進 ・医師の確保・偏在解消 ・無医地区・過疎地域における定期的な巡回診療、へき地病院等の医師確保の推進 ・「病・病」「病・診」「医・福」施設間の広域ネットワーク化の推進	市町 事業者 県
○健康寿命の延伸に向けた施策の展開 ・家庭・事業所・地域における「健康経営」の推進 ・健康な生活習慣の定着推進 ・特定健診・特定保健指導の受診勧奨	市町 民間団体 県

施策	実施主体
○出産・子育て支援施策の拡充 ・不妊治療・出産・子育てにかかる費用に対する助成 ・多様な保育・子育てサービスの提供・充実 ・保育士・保育教諭等の人材確保と資質向上	市町 事業者 県

（４）官民協働による施策の推進

◆戦略のねらい

伊豆が一体的な地域づくりに取り組むためのコーディネート機能等の推進機能強化と、戦略の推進を担う人材・組織を育成することで、地域づくりの目標実現に向けた戦略展開の確実な推進と、効率性・効果性の向上を図ります。

◆施策の展開

施策	実施主体
○各種広域団体との連携・事業整理 ・伊豆半島ジオパーク推進協議会 ・サイクル事業団体（静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会、狩野川周辺サイクル事業推進協議会）	首長会議 美伊豆　ジオ協 県 市町 協議会等
○伊豆の未来に必要な人材・組織の育成 ・伊豆のリーダー育成のための研修等の実施 ・学校教育における地域を大切にする心の醸成	美伊豆 市町 教育機関 事業者
○行政機能の連携に関する検討 （広域連合を含めた将来課題としての検討）	首長会議 市町

第４章　推進に当たって

１．推進力の確保

（１）推進する仕組み

「伊豆半島グランドデザイン」は伊豆半島の全体戦略であり、その基本理念である「伊豆は一つ」は保持し、引き続き広域連携を推進していきます。

「伊豆半島グランドデザイン」の方向性は首長会議で決定し、本グランドデザインの推進組織である美伊豆が、観光地域づくり法人として、観光及び観光関連事業を一体として推進していきます。

人口減少社会を踏まえた、美伊豆で担わない行政課題は、首長会議で議論していきます。また、本グランドデザインの進捗管理及び評価は首長会議が行います。

（２）推進機関の再編

伊豆半島ジオパークの世界再認定に向けて、伊豆半島ジオパーク推進協議会はユネスコのガイドラインで法人化していくことが求められています。また、伊豆半島の観光産業をさらに活性化させるため、伊豆半島ジオパークの更なる利活用や伊豆半島ジオパークにおけるサスティナブルツーリズムの推進も必要となります。

以上を踏まえ、首長会議から美伊豆と伊豆半島ジオパーク推進協議会に対し、統合の検討やそれに向けた課題の整理について、検討するよう求めていきます。

２．伊豆半島グランドデザインの推進組織である美伊豆のありかた

（１）組織体制・人材

地域づくりの推進において、人材は最大の資源であります。美伊豆が観光及び観光関連事業を一体として担い、自治体や関係団体との連携を図るため、美伊豆の職員は行政職員の配置を前提としたうえで、段階的に民間人材やプロパー人材など観光分野における専門性の高い人材の登用を図ることとします。併せて、伊豆全体で人材を育てるため、美伊豆と各観光協会との人事交流なども検討していきます。

将来的な組織体制を見据え、理事会等の意思決定機関、実事業を実施する現業部門の双方について検討を行うとともに、情報共有の方法や人事評価をはじめとした、組織運営に関する基本的なルールの検討を行います。

（２）資金の確保

美伊豆をより求心力のある組織とするため、さらなる自主財源の獲得に向け、美伊豆の財源の確保や企画機能の強化を図っていきます。

予算を集約し重複を排除するとともに、成果の乏しい不必要な事業を見直します。

国県補助金や民間資金など活用可能な財源を常に把握し、必要に応じ申請手続きを実施します。また最適な財源のポートフォリオ（組合せ）を検討します。

安定財源となり、また事業推進におけるパートナーともなることから、会員の獲得・維持に向けた検討を行うとともに、自主財源の獲得に向け、収益事業についての検討を行います。

３．各主体の役割について

施策を確実に推進していくためには、各施策における推進主体とその役割を明確にする必要があります。各主体の役割は次のとおりです。

主な主体	役割
首長会議	・グランドデザインの方向性を決定 ・グランドデザインの進捗管理、評価を実施 ・人口減少社会を踏まえた、美伊豆で担わない行政課題の検討
美伊豆	・グランドデザインの推進組織 ・観光地域づくり法人として観光及び観光関連事業を一体として推進 ・美伊豆構成員などの地域内の観光関連事業者や地域ＤＭＯと連携
美伊豆構成員（市町、域内観光協会、交通事業者、観光事業者等）	・伊豆半島内の観光事業者は構成員として、美伊豆の活動に参画 ・伊豆半島ジオパークやサイクリング、食資源などの地域資源を活用したプロダクト開発を連携して実施
地域ＤＭＯ	・観光地域づくり法人として観光及び観光関連事業を一体として推進 ・美伊豆と連携し、事業を実施
市町	・グランドデザインを踏まえた基礎単位として地域づくりの推進 ・広域的展開への積極的な参画 ・推進組織設立に向けた調整（人的、財政的負担） ・地域のまちづくり団体、住民への参画呼びかけ
県	・グランドデザインを踏まえた所管施策の展開 ・広域的な施策展開への積極的参画（参画または人的、財政的支援） ・国の助成事業等の積極的活用・取り込み
教育機関	・グランドデザインを踏まえた所管施策の展開
国（出先機関）	・グランドデザインを踏まえた所管施策の展開 ・広域的な施策展開への積極的参画（参画または財政的支援）
民間団体（企業・ＮＰＯ等）	・地域づくり活動への積極的参画（中心的活動） ・広域的な施策展開への積極的参画 ・財政的支援 ・地域防災団体などを含む
地域住民	・地域づくり活動への積極的参画 ・来訪者との心地よい交流（もてなしの心）
協議会等	・地域づくりへの積極的参画（中心的活動） ・会員へのグランドデザインの理解と積極的参画の呼びかけ ・サイクル関係団体等を含む
交流者	・美しい地域づくりへの協力 ・伊豆への評価とその発信

世界から称賛され続ける伊豆に向けて

私たちが暮らす伊豆は、実に魅力に満ちた美しい半島です。

私たちは、「伊豆は一つ」の理念の下、世界から称賛される美しい半島を築く羅針盤として、平成25年に「伊豆半島グランドデザイン」を策定し、あわせて、推進組織として「美しい伊豆創造センター」を立ち上げ、各種施策を展開してきました。

そしてこれまでの間、伊豆半島ジオパークはユネスコ世界ジオパークに認定され、韮山反射炉は世界遺産となり、伊豆縦貫自動車道は天城まで延伸されるなど、伊豆を取り巻く環境は徐々に変わり始め、国内外の来遊客も増加傾向にあります。

しかしながら、一方で若者の流出や高齢化の進行は依然として歯止めがかからず、伊豆はまだまだ変貌を遂げたとは言えないでしょう。

この伊豆地域を自信と誇りを持てる地域に再生し、美しく魅力ある半島を継承していくために、今、また改めて、伊豆の現状と将来を見つめ直し、新しい時代と環境の変化を踏まえたグランドデザイン（令和元年度版）を策定しました。

本グランドデザインは、伊豆地域約60万人の伊豆を愛する気持ち（伊豆愛）が込められていると言っても過言ではありません。伊豆半島に住む人々が相互に想い合い、それぞれの自然や文化に誇りを持って、伊豆半島約2000万年の歴史とともに生きています。そんな私たち一人ひとりが、伊豆愛の心をもって伊豆半島を訪れる国内外の人々を迎え入れ、おもてなしすること、それこそが世界から称賛される美しい半島への一歩となるでしょう。

私たち伊豆地域の首長は、新グランドデザインの下、伊豆全体の連携や各市町の行政運営の中で率先して行動するとともに、民間企業、ＮＰＯ、地域住民等との協働を通じて「世界から称賛され続ける伊豆」の実現に向けて、大きな推進力を確保してまいります。

令和２年３月２５日

沼津市長	賴重　秀一	東伊豆町長	太田　長八
熱海市長	齊藤　栄	河津町長	岸　重宏
三島市長	豊岡　武士	南伊豆町長	岡部　克仁
伊東市長	小野　達也	松崎町長	長嶋　精一
下田市長	福井　祐輔	西伊豆町長	星野　淨晋
伊豆市長	菊地　豊	函南町長	仁科　喜世志
伊豆の国市長	小野　登志子		